

## 津島本町筋に溢れる灯り【佳作】



設計者

黒田卓磨

### ◎設計主旨

東京や大阪の大都市にはいまだ活気あふれる伝統を受け継いだ商店街がいくつも存続しています。そこには、何十年と続く個人経営の商店から、コンビニやチェーン店、開業したての個人経営店が肩を並べて、活気溢れる日常生活が繰り返されています。都市を網の目のように細かく走る、線路と地下鉄、バス路線が、車を持たない生活を可能にし、一切の無駄がなく高度に密集した建築群による人口密度が商店街を現在にも存続させているのです。

一方地方都市においては、交通手段が乏しく、車中心の生活が余儀なくされ、ロードサイドにチェーン店が立ち並ぶ光景は日本中のまちの風景を均一化しています。ほとんどの商店街が衰退の一途をたどり、唯一活気があるのはショッピングセンターなのです。今回のテーマである津島市本町筋もその一例です。

本町筋の伝統的な町家建築群も、京都や高山などにみられるような連続した街並みとして保存できておらず、駐車場や空き地、プレハブ建築が共存しているのが現状です。観光資源としても、また日常生活を支える活気も乏しい状態です。

再び本町筋が活気を取り戻し、伝統ある生活と建築が持続することを強く希望します。提案は、ものづくりのしくみの再定義による本町筋の活性化です。ツシマキャビネットと名付けた、都市型キャビネットを本町筋に点在させ、人とモノとの新たな出会いの空間を創出し、本町筋に再び持続可能な活力を与えるものです。

### ◎講評

#### ○難波和彦審査委員長

本町筋に沿って「ツシマ・キャビネット」と名付けられた、多様なサイズとデザインを持つ展示用のキャビネットを点在させ、そこに様々な物品を展示することによって、人とモノとの新たな出会いの空間を創出しようとする提案です。夜間にはツシマ・キャビネットが街並を明るく照らし出すショーケースともなる斬新な試みですが、展示される物品や、キャビネットの奥に住む住人との関係が不明解である点に、審査員の疑問が集中しました。

### ○朝岡市郎審査委員

本町筋に賑わいを取り戻す“津島キャビネット”の提案で、常設のフリーマーケット、ネット販売などで賑わいを持続させる古い街と新しいシステムとの融合は素晴らしい。キャビネットの活用方法の津島スタイル、住む人とのかかわりにもう少し詳細な提案があればさらに評価が高かったと思います。

### ○浅野聡審査委員

この提案は、ツシマキャビネットと命名された小さな賃貸展示空間をまち中に設置することが特徴的であり、ソフト面からの地域再生を打ち出している点が他の提案にはない面白さでした。

ただし、地方都市の中心市街地では、既に町家を利用した一坪ショップ等の類似した展示空間が実現されていることから、津島の本町筋の地域特性にこだわりを持ち、(他市との競合に打ち勝つ)ここならではの賃貸展示空間の利用方法が展開出来ればより高い評価になったと思われれます。

### ○生田京子審査委員

津島キャビネットという小さな空間を町家の中に散在させる案。各キャビネットは全世界的に貸し出され、そこに並ぶ商品も店頭以外にインターネット上でも売買される。海外にまで津島を発信するという意味で面白いアイデアである。津島を海外に開く一方で、いかに津島らしさを継承していくか、という更なる企画力が求められた。

### ○清水裕之審査委員

ツシマキャビネットとよぶ大小様々なスタイルの賃貸展示空間(都市型キャビネット)を本町筋に点在させることで、人とモノとの新たな出会いを創出することで、まちを活性化させようとする大胆な試みは、ネット社会における空間を超え人やモノのつながりを地区という実空間に反映させる発想のユニークさが際立っていた。この点は非常に高く評価したい。

しかし、キャビネットの形が、本当にこの形でいいのか、それがどのような根拠から生まれたのかという問いに十分にこたえるだけの説得力を持っていないのが残念であった。

### ○日比一昭審査委員

本町筋を中心にしたキャビネットを点在させることにより、人の動きを呼び戻し、まちに活力を創り出すという提案は、大変に魅力的な提案であり、私の目指す回遊式のまちづくりのヒントになると考えます。

まちぐるみで参加型のイベントも可能であり大変な可能性を感じます。

このアイデアを活かし、本町筋が創造力のある「まちなか美術館」等として再生できるのではないかと考えるとわくわくする思いであり、私としては高く評価したい。